

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1475400758
法人名	株式会社アイ・ディ・エス
事業所名	グループホームバナナ園生田ヒルズ
訪問調査日	平成24年10月19日
評価確定日	平成25年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475400758	事業の開始年月日	平成17年8月1日	
		指定年月日	平成17年8月1日	
法人名	株式会社アイ・ディ・エス			
事業所名	グループホームバナナ園生田ヒルズ			
所在地	(2 1 4 - 0 0 3) 神奈川県川崎市多摩区三田5丁目9083			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員が地域交流し、ホームに孤立しないようにする。近隣の方が遊びに来るなど普通の地域住民のような生活を送れるようにする。近隣の方々に入居者職員の顔を覚えられくらの交流をする。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年1月19日	評価機関 評価決定日	平成25年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームバナナ園生田ヒルズは株式会社アイ・ディ・エスが関連を含め8つのグループホームとデイ1高齢者住宅1などを運営する中の1つで多摩区三田に平成18年にウッドデッキと芝庭がある洋室6和室2+リビング兼食堂の構成の住宅をグループホームに改築され各室に・エアコン・スプリンクラーが設置された定員8名1ユニット制のグループホームである。●ホームヒルズは小田急線生田駅から4ツ目のバス停「春秋苑入り口」から徒歩3分、高台の閑静な高級住宅街の一角で隣に永沢浄水場がありその高台からは富士山・新宿の街・スカイツリーなども見渡せる絶景のポイントにある。●この会社の社是に「明るく楽しく自由に」を掲げ、お客様の喜び・地域の喜び・社員の喜びをモットーとして施設運営に当たって施設長に自由裁量権が与えられていて「9つの自由の原則」を基にホームは地域密着と心に愛を持った支援を重視して運営が行われている。●食事では手伝が出来る人に下膳や食器洗い等も手伝ってもらい、利用者や職員による近くのお店からの食材調達と業者からのレシピ付き食材調達を交えて、特にお米については拘りを持って岩手県の農家直送のものが使われて調理し、職員も同じテーブルで、入居者のペースで楽しく談笑しつつ食事が行われ、誕生日等には特別食で対応し楽しみのある支援が行われている。●また、地域交流密度を高めたいと願い自治会の班長も受け地域清掃を始め、著名女流狂言師の協力を得て趣味クラブをホームで開き近隣の方々の参加を得て交流を深めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園 生田ヒルズ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、自由に」を理念とした環境とサービスの提供。 地域に根ざした暮らし。	法人の理念「明るく楽しく自由に」を事務所や玄関に掲示して、その根底に流れるお客様の喜び、地域の喜び、そして自分たちの喜びを日々の業務、認知症入居者の介護支援を通して地域に根ざした暮らしと支援の質向上が実現できているか、自らの行動を省みて理念の共有認識を全員で図っている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の班長などを行い、地域の方との交流の場が増えてきた。	自治会に加入し、地域の祭りや盆踊り、地域の美化活動にも参加し交流をしている。また入居者の散歩時や近くの店舗での買い物時にはお店の方や行きかう人と話したり挨拶をしている。更にホームでは地域のボランティアの狂言教室(近所の方の参加で小唄指導も)の受け入れに加え、見学会なども計画して、常にホームを開放する事で地域との交流の場が増えてきている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流を促進して行く中で、自然とそうなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	講習会などを行い、集まって頂いた方からの意見などお聞きしたりすることが、サービス向上に活かされてきている。	ホーム管理者、介護支援専門員、ホーム介護主任、家族代表、近隣住民、入居者代表の参加で運営推進会議が2ヶ月に1回開催されホーム概況と今後の行事計画を報告し、参加者からの意見や提案などを頂いてる。会議の結果を議事録に残し職員間の共有を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	これからそうなっていければと思っている。	川崎市など行政との連絡は本部が行なっていて此処ヒルズでは直接の交流は殆ど行なわれていない。三田地区の包括支援センターとは運営推進会議に参加して頂いたこともあるが現在は中断している状況。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、立地条件を考えると致し方ないと、思っている。	身体拘束に関しての同意書を発行して、本人または他に重大な危険性及び兼ねない時以外は拘束は行わない。と謳って研修も行われていて、全職員が拘束、虐待の禁止について理解認識して開所以来拘束を行った事例は無い。玄関口と通路に面した門扉は家族の了解を得て施錠をしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修会にも参加して勉強し、ホーム内での防止に努めている。また、インターネット等による情報収集も行い参考にしてている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が、制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時に契約書や重要事項説明書は全文読みながらの説明をし、その都度疑問点や質問にもわかりやすく答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等の意思表示は大切な部分で人格の尊重や自由のバロメーターになるものだと考えていますので、その意思表示が出来るよう接遇や環境には配慮をしています。また、ご家族や後見人、が面会に来られた際は居室で過ごして頂いてますし、ご家族や後見人の方々と、状況説明を含めコミュニケーションを図っています。	不満・苦情の対応は運営規定9条3及び契約書22条に窓口担当者名及び公的機関窓口を明記し、ご家族には契約時に説明している。意見、不満、苦情等の意思表示は大切な部分で人格の尊重や自由のバロメーターになるものだと考えていて、ご家族の来所時には居室で過ごして頂き、管理者または職員から近況報告と共に意見、要望を聴くようにしている。聴取した要望意見はカンファレンスで検討の上運営に反映させ、結果は家族に報告している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その意思表示が出来るよう接遇や環境には配慮をしています。	日々の引継ぎ時や定期的な会議やカンファレンス等を通じて日頃感じている事などを職員間で意見、提案として出してもらい反映できるよう努めている。加えて管理者と職員の間は個別面談時の会話はもとより、仲間として何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて意見要望などを聴いて運営に反映されている。費用を伴う内容案件等は管理者を通して理事長決済を得て反映させている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための社内勉強会の実施や管理者・主任・ケアマネージャーの各会議での情報の共有。新入社員・新任管理者&主任の研修会に於いての情報の提供と共有。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社の内外の研修会には積極的に参加する様に通達・指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今、動き出したところです。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々職員が入居者様とのコミュニケーションを図り困っていること、不安、求めていること、好き嫌い、過去の歴史、そしてご本人の機嫌（精神状態）等の情報を取得し、環境やサービスに反映させるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等からの相談はいつでもお受けし即答できることは即答しています。また、重要と思われる事柄はケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「お試し入居」を設け、また、ご本人様、ご家族に複数回の来園をお願いすることによって図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることは、体調や機嫌をみて一緒にやるようにしている。入居者様6名と職員による擬似家族ですから、入居者様を認知症の方としてではなく健常者として接し出来ない所をサポートすることで、プライドを傷つけないようにして人間関係を築いていくように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には入居者様のために、ご家族様の協力が必要な場合があります。その際には状況を説明相談ご協力をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来園はいつでも歓迎していますが、他のことはご家族と相談のうえ対応している。	これまでの本人とかかわりの場所や人間関係の把握は、日ごろの会話や家族からの情報等で把握している。これまでの関わりを維持する為、手紙や電話の取次ぎに加え、知人の来所面接など本人と家族の意向を確認の上、支援している。懐かしの場所への訪問外出は家族と相談協力ですきに添えるようにしている。事例としてお彼岸のお墓参りや通い慣れたお店での買い物等が実施されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関わり合いは、積極的に支援しています。きっかけ作りも職員が間に入っている。また、入居者様同士の距離感にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりやむなく退去された方には、お見舞いやその後の事の相談や入居先探しも支援している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の過去の生き方や生活歴の情報を集め参考にし、希望や意向に沿う様にケアマネジメントに努めている。	意思表示が出来る入居者には日頃の会話を通じて直接聴いて意向の把握を行っている。しかし意思表示が難しい入居者には寄り添いで、表情や行動から汲み取るようにし、又家族からの情報の生活歴で、一人ひとりの思いや意向を確認し、外出なども本人本位を前提にケアプランを作成して対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	大切な要素と思いますので、ご本人やご家族、お友達等から情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好みの過ごし方や心身の状態は日々、接遇時や見守り時にチェックしています。有する力は健常者として接することにより有する力の程度を把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろからのご本人やご家族や職員からの意見や提案を介護計画に反映する様にしている。	介護計画の見直しは基本的には3ヶ月サイクルで見直し検討が行われている。但し、状態に変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。一人ひとりに適した具体的内容とする為、カンファレンスで日常生活の記録のアシメントの確認に加え職員個々の経過観測結果からの意見を述べあつて、家族や計画作成担当者との話し合で、その人の持つ能力が発揮できる介護計画を立案している。また、モニタリングは日々評価判定を記録して実行している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌（センター方式）の情報とケア会議の議事録を参考に計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な姿勢でご本人やご家族の要望に対応支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター、NPOとの交流が始まった段階ですが、支援しなくてはと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは訪問医を受け入れています。ご本人やご家族様からの要望または当方で必要と判断した際は、相談の上適切な医療が受けられるように積極的に支援している。	本人、家族の意見を尊重し希望の医療機関を決めている。現在入居前のかかりつけ医の受診者は無く、協力医療機関：横浜北クリニックの月2回の往診、及び歯科医院の町田デンタルサポートの週1回の往診に加え休日、夜間、緊急時対応で適切な医療支援が行われている。又、時には家族の希望により通院介助支援も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医については上記の通りで、専門病院の方は医療相談室と連絡を取り合い連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問医の支持の下でシフトの変更や人員の増強をし今後の変化に備え、情報の共有と徹底を図る。	終末期の対応として適切な看取り介護を果たせるよう、家族・訪問医・介護スタッフの協力の下で本人、家族の意思を最大限考慮して支援する方向で備え契約時に看取りについて説明をしている。今後状況に応じてシフトの変更や人員の増強などを行い家族及び主治医、看護師、介護スタッフとの連携で、繰り返し検討を行い決定するとしていて、ホームの職員も理解共有している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安心出来るほどの実践力はない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いていかないと思っている。	様々な災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加えて定期的な年2回、夜間を想定しての防火訓練、を実施して所轄消防署に報告書を提出している。また、マニュアルに沿った研修もを行い、初期消火活動に加え避難誘導や広域避難場所の説明、災害時の行動手順などの確認を行っている。設備としてスプリンクラー設置に加え非常食料備品の備蓄も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報使用に関する同意書を頂いていりますので、必要時以外での個人情報の公開はしておりません。また、プライドやプライバシーを傷つけたり、損ねる様な接遇にならないようにしています。	入社時のオリエンテーションで個人情報の取り扱いと守秘に付いて説明している。また、ホーム方針として入居者の意思、人格を尊重し支援をする事を説明して、日々の会話での言葉遣いやサービス提供時の声掛けには定めを遵守する事を全職員が理解共有している。実際の介護の場面に於いても、利用者の人格を尊重し親しみを持った話しかけと呼びかけで支援を行い、トイレ誘導もさり気なく行われている事が確認できた。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい。常にご本人の意思表示を大切かつ優先しております。希望に今すぐに添えない場合は、その理由を説明し納得を頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常識的規範としてのルールはありますが、ホームとしてのスケジュールは無く、緩やかな目安で日一日を運営しておりますが、全てに於いて入居者様の生活ペースと意思表示が最優先として接合、環境、そして運営を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容やホーム内衣服と外出用衣服に使い分けている。また、理美容は、ご家族様が対応される場合は馴染みの店に行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の気分や体調にもよりますが、一部調理や食器の荒い物・、後片付け等、職員と一緒にしていただいています。	調理は食材業者のレシピつき食材でホーム職員によって作られる日と職員と入居者とで材料調達を行なってレシピを考え調理する日の2通りがある。準備では配膳下膳など手伝える人にやってもらっている。リクエストは時として行なわれる外食や店屋物で要望に応えている。また、刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせた食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話を楽しみながら食事支援が行われていることを調査時の食事同席で確認できた。誕生日にはケーキを作り、正月、敬老の日、クリスマス等には特別食で支援がされている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない場合は、入居者様の状態や習慣に応じ、牛乳や果物を摂取して頂き摂取量や栄養のバランスと取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ない入居者様は、訪問歯科の協力を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	「排泄チェック表」により一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らったトイレ誘導で適切な支援を行っている。またプライバシーに配慮したさりげない観察で、お漏らし時には他の人に気付かれない交換に努め出来るだけトイレでの自力排泄を試みる事でオムツの使用量を減らす工夫が行われている。夜間においても睡眠を妨げない事を考慮に入れて、声かけ支援でポータブルも利用して用足しを行なっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品を採用するなど、予防に取り組んで椅子。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当ホームでは、開設当初より入浴日の設定がなく、おおむね2回/週を目安に入居者様への声掛けやご本人からの希望で入浴をして頂いています。	入浴は清潔保持、身体観察、体調変化の把握などの重要な役割があると考えてバイタルチェックと共に無理強いすることなく本人の意向を確認しながら一人ひとりの希望に合わせ、お勧めして週2～3回を目安にタイミングを見計らった入浴支援を行なっている。嫌がる人には、再度の声かけ等で入浴を促している。季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂の椅子やソファでの居眠りを自由にして頂き、夜間は各居室のエアコンや電気もご本人に好みで使用して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医のご指導の下、往診記録することで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方々には、台所仕事、洗濯、庭の手入れの一部をやられる方が多く、一部の男性の方には、簡単な修理や保守をおながいしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そこまでは行かないが、外出の機会をどんどん増やしていこうと図っています。	散歩を楽しみにしている方もいる反面、車椅子使用の為、あまり出たがらない方もいるが、日々の関わりの中から希望を聴いて誘って車椅子の方にも外出が出来るよう支援を心掛け日常の散歩コースに加え買い物に行ったりしている。家族とも相談しながら遠出外出なども計画している。ドライブと称して車椅子の方の対応も兼ねて北部市場公園へのお花見なども行なっている。今後さらに増やして行きたいと考えられている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは預かり金の中からお本人に買物に行って頂いた居ます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、24時間ホームの物を使って頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本住居なので生活感はある。季節感はその時々の花を生けるなど配慮している。	玄関、階段、トイレ、風呂、全てに掃除が行き届き異音、異臭なども無く、採光も良い。キッチン続きの食堂兼居間からはウッドデッキと芝庭へも続き季節を感じることが出来、室内は空調管理も施され、入居者が思い思いに過ごせる様になっている。入居者が作った四季の花が施された大きなカレンダー作品のに加え暮らしがわかるスナップ写真も貼られ、家族の来訪時には話題作りとして利用されるなど、寛げる空間作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるだけのスペースを持っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご本人の馴染みのある物を用意していただく様に勧めており、居室内は自由に配置する様にしています。	入居者各人の部屋は全て間取りが異なり個性がある。その室内には使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、鏡や、椅子、ベット、と共に家族写真、ぬいぐるみ、仏壇等も置かれ、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室から食堂&リビング間やトイレ、浴室、階段に手すりを配置して導線を確保する共に職員による声掛け、見守りにて安産を確保しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームバナナ園
生田ヒルズ

作成日 平成24年10月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域交流が少ない	近隣の方々とヒルズ入居者、スタッフとの日常的な交流の確立	毎月のセミナーや狂言教室等で近隣の方々に来ていただく為のお誘いを根気よく続ける。	半年～1年
2	18	地域交流が少ない	自治会の班長の職を通して地域に根付いたヒルズにして行く。	毎月のセミナーや狂言教室等で自治会役員等へのお誘いを根気よく続ける。	半年～1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。